INTELLIGENCE BRIEFING // STRATEGIC IP ANALYSIS

調査基準日：2026年11月1日



ソフトバンクグループ 知財戦略の転換点

大量出願フェーズからの脱却と、生成AI時代のグローバル権利化網の解明

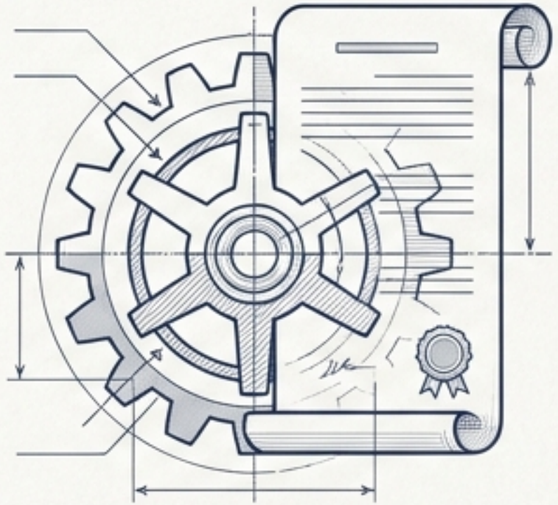
Gemini Notebook

SBGの知財は単なる「数」の誇示を終え、精緻に設計された権利化とグローバル展開のフェーズへ突入した



国内公開と登録の爆発

2025年を境に日本国内での特許公開が急増（2万件超）。同時に、特許化（登録）の成果も急速に実を結び始めている。



巧妙な権利化プロセス

大量出願は「基礎出願」に過ぎない。国内優先権を駆使し、3年の猶予期間を利用して具体的な構成を「肉付け」する高度な選別が行われている。

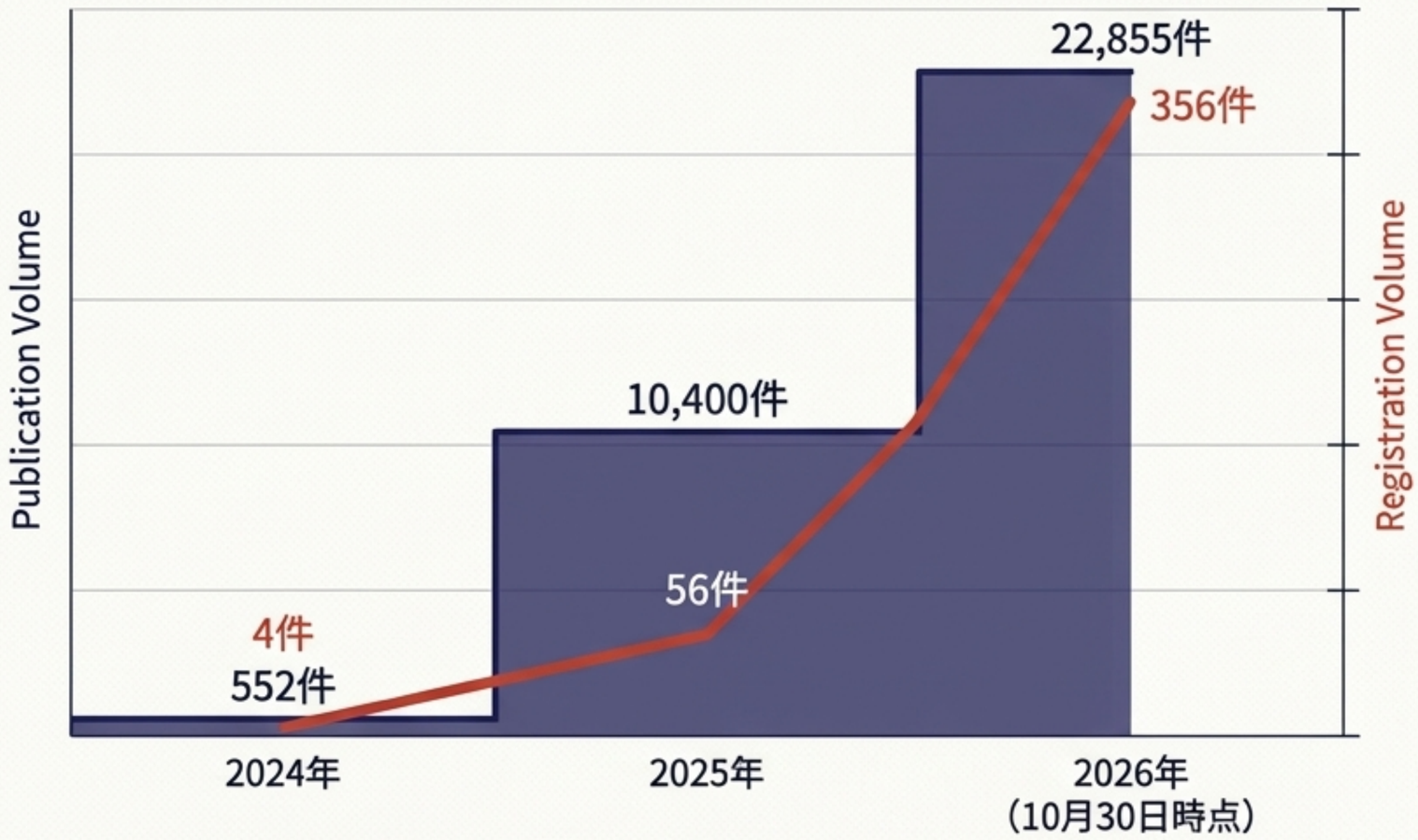


生成AI領域での米国急襲

日本での基礎出願から約1年後、多面的なルートで米国市場へ一挙に展開。生成AI関連の公開特許数で米国首位に躍り出た。

Gemini Notebook

2025年を境に出願公開件数が爆発的に増加し、特許登録も急増の兆しを見せる



出典: IP Force 特許庁公報集計（2026年10月30日更新分まで）

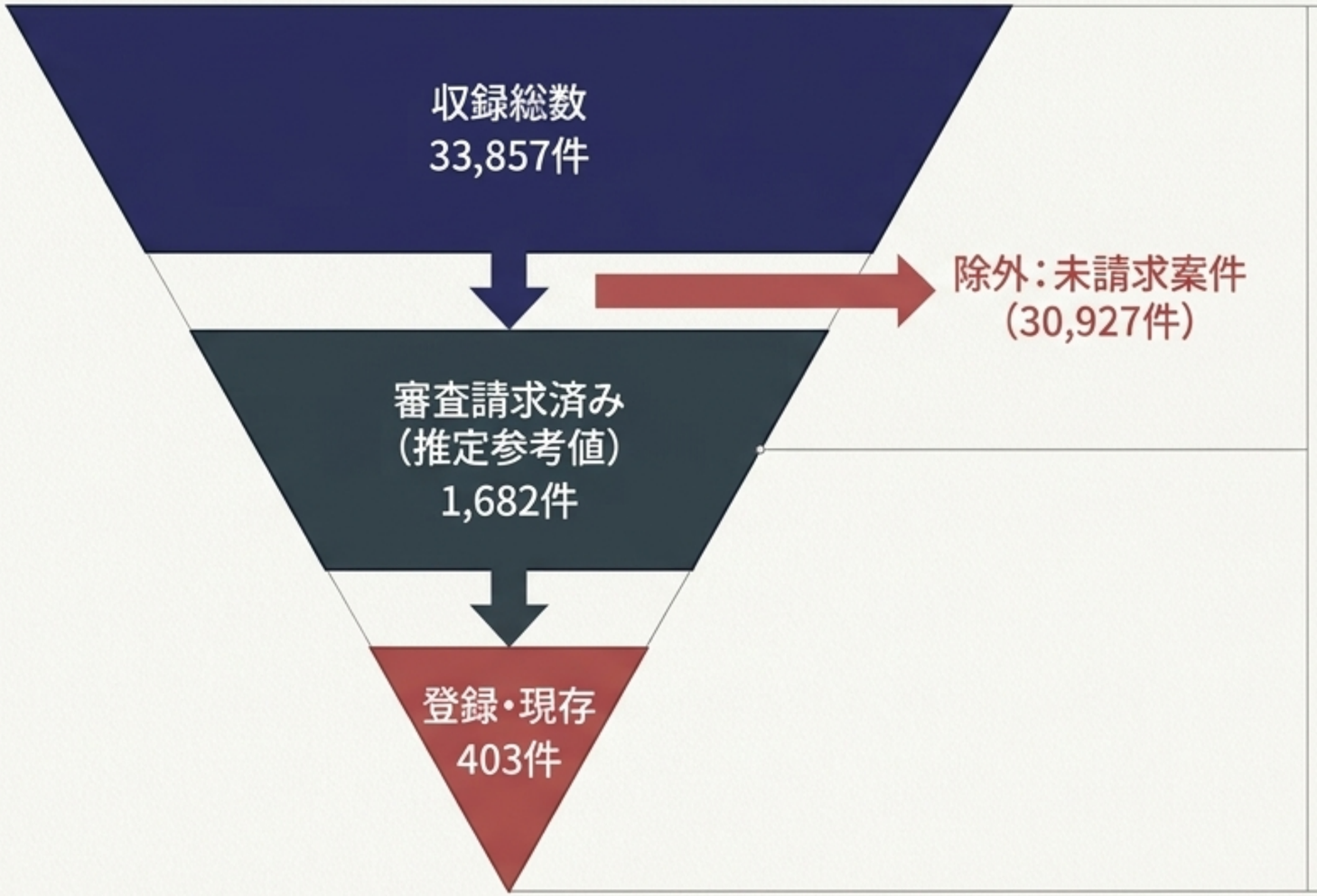
⚠ 陥りやすい罠

2026年の公開数(22,855件)と登録数(356件)は異なる出願群の断面に過ぎない。

「356 ÷ 22,855」を特許査定率として算出することは実務上誤りである。

Gemini Notebook

3万件を超える出願群のすべてが権利化されるわけではない（審査請求の選別）



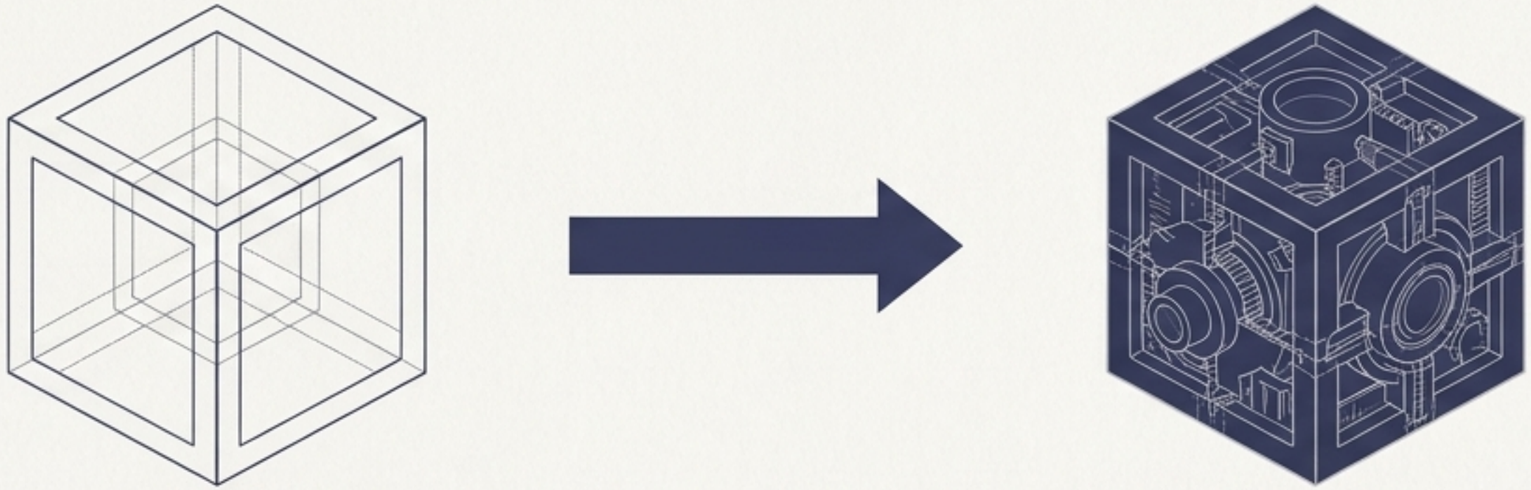
現時点で大半が「未請求」状態。
SBGは事業価値の高い発明を見極めるため、審査請求のリミットまで意図的に権利化プロセスを保留し、選別を行っている。

※上記は2026年10月15日時点の断面データであり、累計件数ではない。

出典：Compalyze（2026年10月15日確認分）を基に算出

Gemini Notebook

権利化のエンジン：国内優先権を活用した「肉付け」とタイムラインの延長



基礎出願
（アイデアの骨組み）

国内優先権主張出願
（具体的な構成・実施形態の追加）

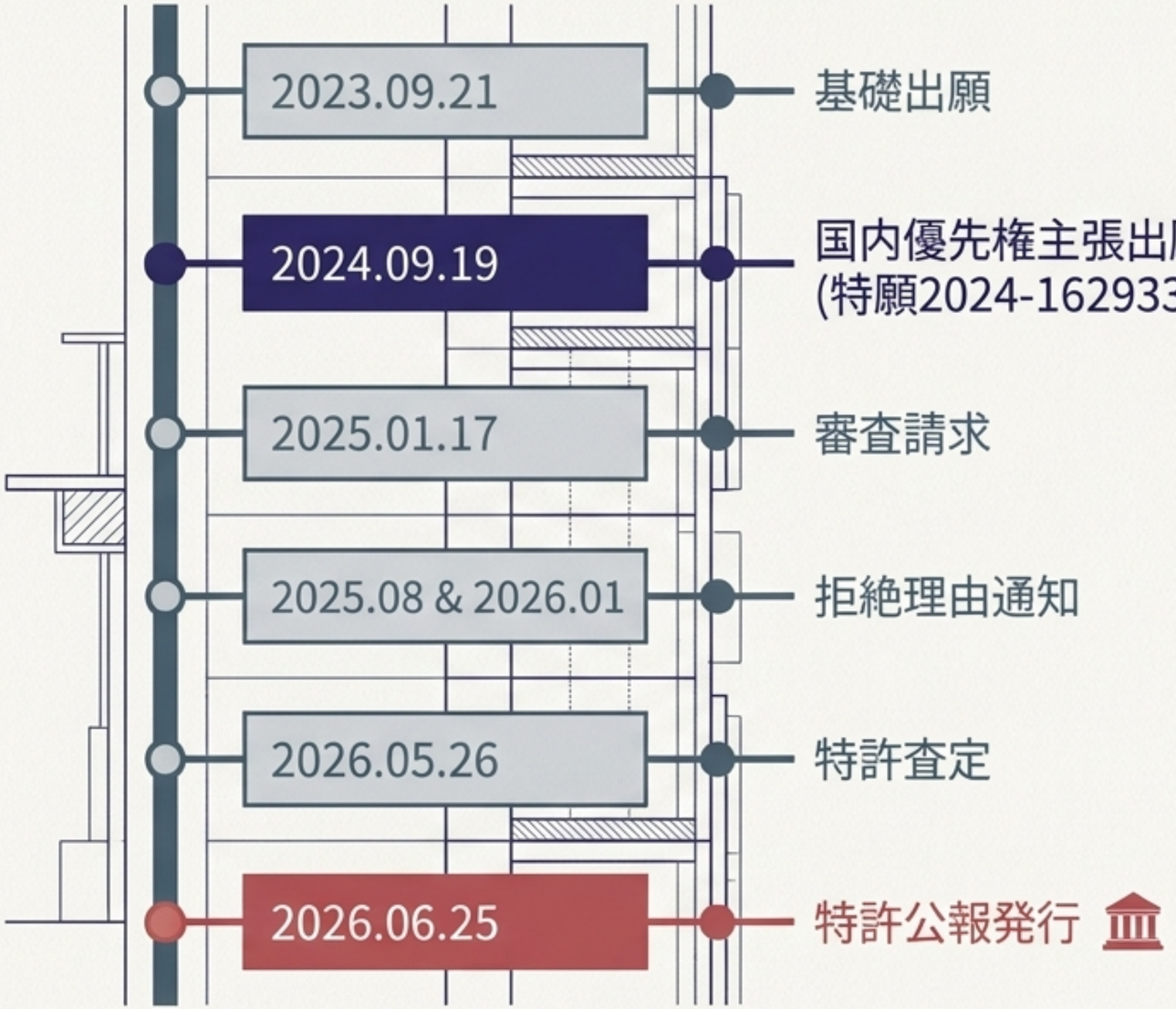


審査請求期間は基礎出願の優先日ではなく「後願の実際の出願日」から3年となる。
「2023年の発明だから2026年にすべて結論が出る」と想定するのは危険であり、
2027年以降に最終的な権利範囲が確定する案件が多数控えている。

参考文献：オンダ国際特許事務所 分析レポート / INPIT

Gemini Notebook

ケーススタディ：特許第7880385号（ペット状態解析システム）の軌跡



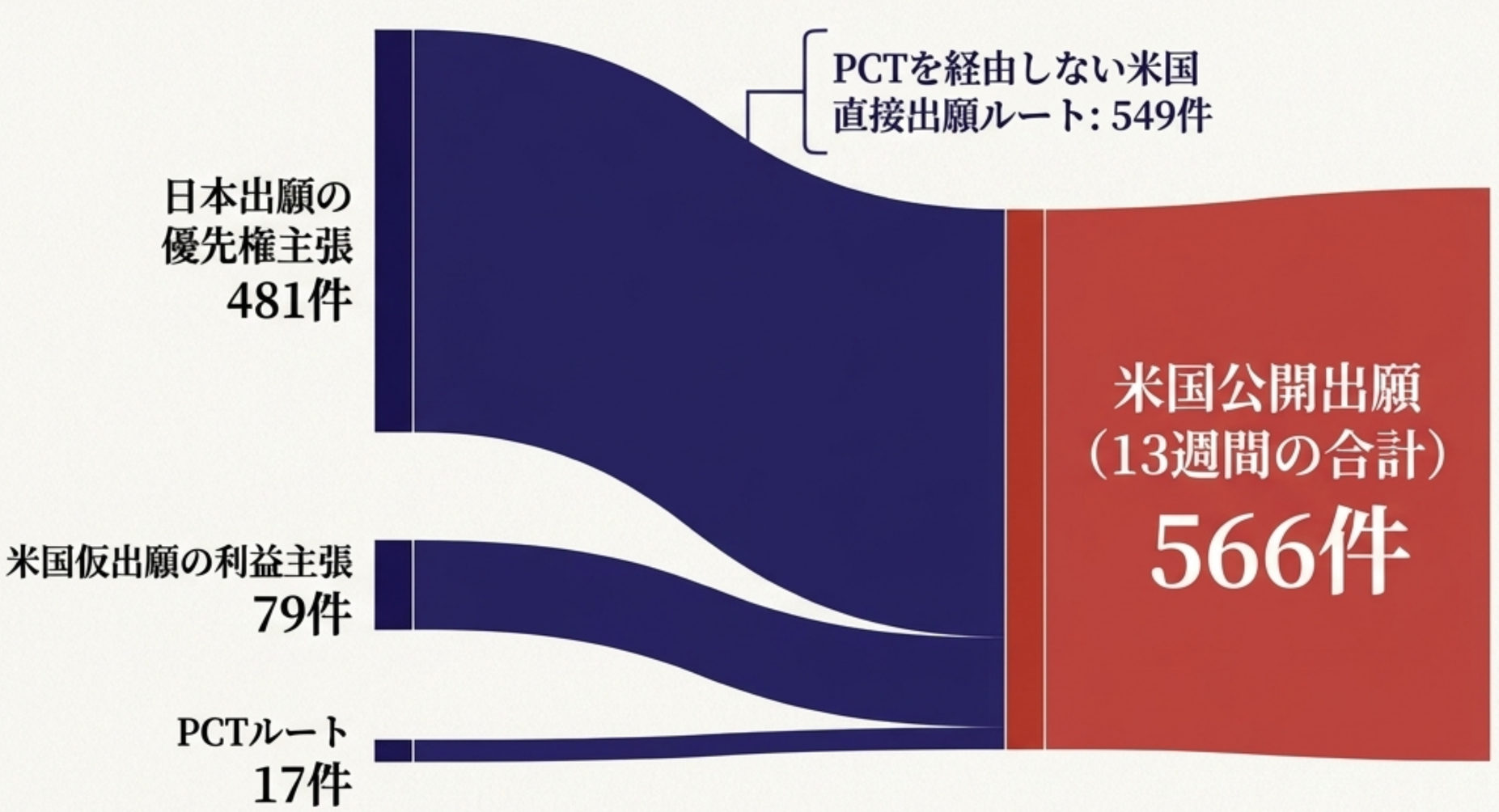
単なる「アイデア」から「実効性のある権利」への進化

登録された請求項には、「ペットの状態に応じたデータ収集頻度の変更」や「優先表示データの切り替え」など、基礎出願時には明白でなかった極めて具体的な実装条件が付加されている。

出典: 日本国特許庁 / Google Patents (JP7880385B2)

Gemini Notebook

生成AI領域における米国市場への急襲：わずか13週間で566件の公開



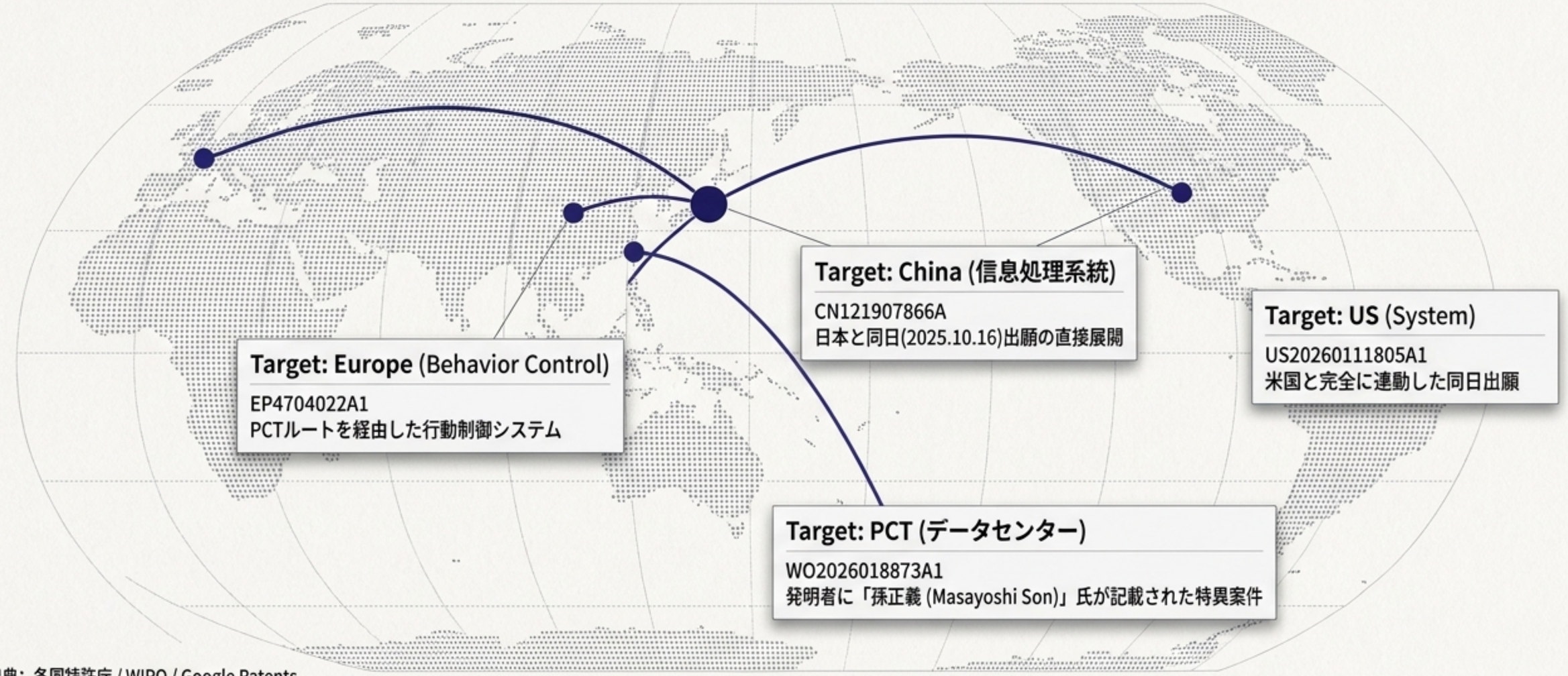
日本での出願から約1年後、PCTを待たずに米国へ直接大量展開する「スピード重視」の戦略。

AI関連の米国公開出願数において、並み居るテック巨人を抑え筆頭出願人へ躍り出た。

出典: Burbage Law (USPTO公開データに基づく13週間の分析, 2026.10)

Gemini Notebook

単一の基礎出願から派生する、多面的なグローバル展開グリッド



出典：各国特許庁 / WIPO / Google Patents

欧米・中国を同時に狙う直接出願と、広範な網を張るPCT出願を使い分け、グローバルな知財包囲網を構築している。

Gemini Notebook

生成AI領域における圧倒的ポジションの確立



- WIPO（世界知的所有権機関）の2026年最新分析において、SoftBankは世界の生成AI特許公開ファミリー数で首位と認定された。
- ※対象期間：2014年～2025年に公開された生成AI分野の特許。

⚠ 注意：これは「特定分野の公開ファミリー数」であり、「全世界で2,985件が登録された」ことを意味するものではない。脅威の「ポテンシャル」を示す指標である。

出典: WIPO SPARK Patent Trends Update in GenAI (2026年)

Gemini Notebook

分析の前提：主体別の知財群の切り分け（SBG vs ソフトバンク株式会社）

ソフトバンクグループ株式会社（SBG本体）

戦略: AI革命を牽引するグローバルな大量出願とポートフォリオ構築。

特徴: 概念的・ソフトウェア主体の広範な特許網。本レポートの主対象。



ソフトバンク株式会社（通信事業会社）

戦略: 通信インフラ・HAPS（成層圏通信）などの具体的な物理・ネットワーク技術の実装。

規模: HAPS関連技術のみで世界約670件の特許権を保有（2026年6月時点）。



競合監視においては、これら2つの出願群を混同してはならない。
全く異なる戦略的意図と技術を持つため、FTO調査時には別々の母集団として扱う必要がある。

出典: ソフトバンク株式会社 企業・IRサイト（2026年6月時点）

Gemini Notebook

競合監視・FTO（特許保証）に向けたSBG知財の正しい評価フレームワーク

	⚠ 表面的な評価（陥りやすい罠）	🛡 深層的な評価（ベストプラクティス）
ボリューム	単年度の公開数と登録数を単純に比較する	審査請求された後願（国内優先権等）の数と進捗を追跡する
権利の強さ	出願公開時の広いタイトルや要約だけで脅威を判断する	拒絶理由通知を経た後の「補正後の登録請求項」と自社製品を対比する
追跡手法	基礎出願（2023年等）の単独ステータスだけを監視する	国内優先権の後願、分割出願、グローバルファミリーをリンクさせて監視する

数に圧倒されることなく、実務上の正しいステップを踏むことで、
真の侵害リスクを正確に隔離・評価することができる。

Gemini Notebook

Intelligence Parameters & Data Sources

	**IP Force & J-PlatPat: 国内出願・公開・特許取得の件数推移および公式経過情報**
	**Compalyze & Patent Integration: 審査請求状況・出願年別の動向・ステータス断面分析**
	**WIPO (世界知的所有権機関): 生成AI分野におけるグローバル・ファミリーランキング**
	**Burbage Law: USPTOデータに基づく米国AI出願の短期集中分析**
	**Onda Techno (オンダ国際特許事務所): 国内優先権を活用した出願戦略のメカニズム解析**

本資料は公開データベースに基づく分析であり、動的データ（審査状況等）は更新により変動します。
最終的な法的判断には各庁の公式経過情報を参照してください。

[END OF BRIEFING] | 調査基準日: 2026年11月1日

Gemini Notebook